

令和4年度
教育委員会事務の点検及び評価
報告書

令和5年6月
橋本市教育委員会

はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会が行う事務として、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が新たに規定されました。

橋本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明を果たすため、有識者会議を設置し、教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、橋本市教育委員会ホームページで公表しています。

点検及び評価の実施を通じて施策の効果を検証し、絶えず改善を図りながら、教育施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、市民の皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和5年6月

橋本市教育委員会

目次

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価結果の構成	1
4 学識経験者の知見の活用	1
5 議会への提出及び公表	1

II 教育施策の点検及び評価

第2期橋本市教育大綱	2
------------	---

各重点的な取組の評価シート

1. 豊かな心を育みます

- (1) 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭教育支援を推進する。…3
- (2) 家庭、学校、地域での人権意識の高揚に努める。 …9
- (3) 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰等）を推進するとともに、
道徳性を育てる。 …14
- (4) 地域文化や芸術、スポーツを楽しむ場を提供する。 …17
- (5) 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。 …21
- (6) ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。 …23

2. 多様な学びと健やかな体を育みます

- (1) 基礎学力を基盤とし、主体的・対話的で深い学びを推進する。 …25
- (2) 学校・公民館等を拠点として、多様性・共同性の学びを推進する。 …30
- (3) 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携充実に努める。 …33
- (4) より良い学びの場のための教育環境を整える。 …35
- (5) 文化施設・社会体育施設（学びとスポーツを楽しむ場）の充実に努める。 …39
- (6) 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・福祉・国際
理解等）を推進する。 …42
- (7) 読書活動の推進に向けて環境を整える。 …43
- (8) 食の大切さの学びを推進する。 …47

3. 地域・家庭・学校の連携を育みます

- (1) 共育コミュニティの活動を通じて、地域の活性化を推進する。 …50
- (2) 地域の教育力を学校運営に生かすために、コミュニティスクールの充実に努める。 …52
- (3) 共育コミュニティとコミュニティスクールが協働し、元気なまちづくりを推進する。 …55
- (4) 教育と福祉が連携し、安全・安心、学びあいのまちづくりを推進する。 …58

III 教育委員会の活動状況

- 1 橋本市教育委員会機構図61
- 2 教育委員会の会議等の活動状況
 - (1) 橋本市教育委員会委員62
 - (2) 教育委員会会議の開催状況62
 - (3) 教育功労賞62

IV 関連資料

- 1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋63
- 2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱63

I 本市における点検及び評価について

1 点検及び評価の目的

教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価することにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出して、公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

令和4年度の「第2期橋本市教育大綱」の基本方針と重点目標の取組状況について、点検及び評価を行います。

3 点検及び評価結果の構成

○ 施策の柱

「第2期橋本市教育大綱」における18の重点目標

○ 重点的な取組

基本方針の柱ごとの目標を達成するための46の重点的な取組について「評価シート」を作成し、その具体的な施策、指標、令和4年度の目標・実績・評価、課題・今後の方向性を記載しています。

○ 課題・今後の方向性

令和4年度の点検及び評価の結果を踏まえ、目標の達成に向けた課題と今後の対応や方向を示しています。

4 学識経験者の知見の活用

点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、令和5年5月12日に会議を開催し、学力向上に関する点検及び評価について御意見をいただきました。

◎教育委員会事務の点検及び評価に係る有識者会議委員名簿

任期：令和5年4月20日～令和6年3月31日

氏名	役職等
いぬい こうはち 乾 幸八	橋本市区長連合会会長
おおがみ たかふみ 大上 隆史	橋本市PTA連合会会長
かつらはら まさふみ 葛原 昌文	和歌山大学教育学部 教職キャリア支援室客員教授

(五十音順・敬称略)

5 議会への提出及び公表

令和5年6月議会に報告書を提出するとともに、橋本市教育委員会のホームページに掲載します。

<https://www.city.hashimoto.lg.jp/guide/kyoikuiinkai/index.html>

第2期橋本市教育大綱

[理念] 人が学びあい、共に育むまちづくり

－自治と協働のまち橋本市に向けて－

[基本方針と重点目標]

1. 豊かな心を育みます

- (1) 「教育は家庭から」の理念に基づいて、関係機関が連携して家庭教育支援を推進する。
- (2) 家庭、学校、地域での人権意識の高揚に努める。
- (3) 態度教育（あいさつ、返事、後片付け、食事のマナー、立腰等）を推進するとともに、道徳性を育てる。
- (4) 地域文化や芸術、スポーツを楽しむ場を提供する。
- (5) 多様な活動を通して、自然との触れあいに努める。
- (6) ふるさと学習を推進し、郷土愛を育てる。

2. 多様な学びと健やかな体を育みます

- (1) 基礎学力を基盤とし、主体的・対話的で深い学びを推進する。
- (2) 学校・公民館等を拠点として、多様性・共同性の学びを推進する。
- (3) 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携充実に努める。
- (4) より良い学びの場のための教育環境を整える。
- (5) 文化施設・社会体育施設（学びとスポーツを楽しむ場）の充実に努める。
- (6) 持続可能な社会の担い手を育む教育（環境・人権・平和・キャリア・防災・福祉・国際理解等）を推進する。
- (7) 読書活動の推進に向けて環境を整える。
- (8) 食の大切さの学びを推進する。

3. 地域・家庭・学校の連携を育みます

- (1) 共育コミュニティの活動を通じて、地域の活性化を推進する。
- (2) 地域の教育力を学校運営に生かすために、コミュニティスクールの充実に努める。
- (3) 共育コミュニティとコミュニティスクールが協働し、元気なまちづくりを推進する。
- (4) 教育と福祉が連携し、安全・安心、学びあいのまちづくりを推進する。

令和4年度 教育委員会事務の点検及び評価「評価シート」

重点的な取組	No. 1	子育て、親育ち講座の充実を図ります。	
	1-(1)-①		
担当部署	生涯学習課（家庭教育支援室）		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭における子育てのあり方について、就学前並びに小学校低学年の保護者を対象に講座等を開催します。 子育てをテーマとして、「子育て講座」を開催します。 学校・福祉部局等の関係機関と連携のもと、子育てのあり方について考え、子どもの成長・発達を社会全体で見守る地域コミュニティづくりをめざし、子どもを取巻くよりよい教育環境の向上に努めます。 地域支援者の養成に努めます。 保護者が子育てに喜びを感じられるように働きかけます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域支援者養成講座・子育て支援講座の実施	
	令和4年度の目標	地域で子育て支援をすることに興味を持ってもらえるよう、内容を考え前年度と同様に地域支援者養成講座・子育て支援講座を開催する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援者養成講座を1回開催、参加者は32名。 子育て支援講座を4回開催。参加者は88名。 本年度は、地域住民が子育てに関心を持ち、積極的にかかわろうとする意識を培い、「地域の担い手」を育成することを目的に講座を開いた。 幅広い世代からの参加があった。アンケート結果からは、「感動もあって、ずっと心に残る講座になると思います」「幼少期の関わり、かけがえのない時間をずっと大切にします」など講座に対して肯定的な声を多く聞くことができ、また各講座の満足度も平均97点を超える等非常に好評であった。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で出来るだけ多くの方に参加いただくため、講座内容に応じて会場だけでなくオンラインでも参加することが出来るハイブリッド形式での開催を行った。 親子で参加できる講座、講演形式の講座、ワークショップ形式の講座等、多様な種類の講座を開催し、幅広い層の参加者が集まった。 	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標②	指標名・内容	保護者間のつながりづくり	
	令和4年度の目標	開催回数は、現状維持とし、保護者同士のつながりができるよう、関係機関と園が連携して講座等の内容を工夫する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援チームによる講座を127回開催（就学時健診含む）。 保護者同士のつながりづくりを中心に講座を展開した。 特に就学時健診時のワークにより、近所の人と顔見知りになることが出来た進学にあたっての不安が解消できた等のアンケート結果も得た。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 各講座を通じてつながりづくりに取り組むことが出来た。 就学児健診では「地域にどんな人がいるか分かってよかった」「普段会わない保護者とお話が出来て嬉しかった」などの感想があり、就学児健診を通じて保護者同士のつながりづくりができた。また、子どもの入学に向けて保護者が持つ疑問点や不安等を拾い上げ、学校に回答してもらったり地区ごとに保護者が集まる時間を作ることで不安の解消につなげることができた。 	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	今後園や支援センター等との連携を強化し、支援の幅を広げていく。		

重点的な取組	No.2	教育相談センターを中心として、子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」など各専門機関と連携し、支援を行います。	
	1-(1)-②		
担当部署	教育相談センター、青少年センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を整理し、問題解決に向けての有効な支援を検討します。 ・学校・福祉機関(子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」)や医療機関等と連携して、効果的な支援を行います。 ・子育て世代包括支援センター「ハートブリッジ」と連携を図り、課題を検討するケース会議を活用します。 ・臨床心理士等の専門家による支援を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	長期欠席児童生徒数(不登校児童生徒数を含む)の低減	
	令和4年度の目標	令和3年度長期欠席児童生徒数より10%減(141名を127名に、うち不登校児童生徒数101名を91名)に取り組む。	
	令和4年度の実績	令和4年度長期欠席児童生徒数が189人(うち、不登校児童生徒数が118人)であった。小学校が64人から86人に、中学校は77人から103人とそれぞれ増加し、目標の1割減には及ばなかった。長期欠席生徒の学校復帰に向けての相談活動を継続的に実施してきたが不十分であった。	
	評価	D	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		学校と家庭への支援、及び福祉部局等関係機関との連携を行い、より多角的・総合的に対応するとともに、迅速に効率よく対応することを心掛けてきた。今後も、よりきめ細かく学校や福祉(ハートブリッジ)との連携をとりながら積極的に取組を進めていきたい。	
成果指標②	指標名・内容	不登校児童生徒の受け入れ	
	令和4年度の目標	社会的自立や学校復帰を目指した適応教室の充実を図る	
	令和4年度の実績	適応教室への利用について、開室日が165日、延べ248人が利用した。ボランティアスタッフと指導員2名が、集団活動を通じて、社会性や適応力をつけていくために取り組みを進めた。結果として中3生2名が高校への進学を果たした。また、中学生1名、小学生1名の児童が登校日数を増やすなど成果があった。	
	評価	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		指導員の適切な関わりとボランティアの応援により、適応教室の利用生の数人が復帰・進学するとともに、利用生の全員が何らかの心の成長をとげた。	

成果指標③	指標名・内容	教育相談の充実、教職員に対する支援の充実	
	令和4年度の目標	子ども・保護者に対する心理的支援の充実を図る。 学校教育と心理の双方に関する専門的知識を持った教職員の育成を行う。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間相談件数595件2,302回、うち派遣（学校訪問）による教職員に対する助言をのべ1,838回実施した。 夏季休業中に、スクールカウンセラー（元大学教授）を講師に招き教職員対象の研修を実施した。市内小中学校から35名の教員の参加があった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
来所及び派遣により、心理的不適応児童生徒及びその保護者への支援ができた。また、派遣相談と研修により、教職員の資質向上に寄与できた。			
成果指標④	指標名・内容	非行防止活動の実施	
	令和4年度の目標	補導件数が増加する長期休業中の補導活動を強化する。	
	令和4年度の実績	コロナ禍の中、一般補導員や関係機関と連携して組織的な補導活動を実施することができなかった。学校補導員と青少年センター職員で長期休業中5回の補導活動を実施した。	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
各学校及び関係機関等と情報を共有し連絡を密にした。			
課題・今後の方向性	各学校及び関係機関とともに、協力体制の強化及び連絡を密にしながら活動を充実させる。		

重点的な取組	No.3	学校・家庭・地域・関係機関との連携を深め、青少年非行の未然防止活動に努めます。	
	1-(1)-③		
担当部署	青少年センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本市青少年補導員・学校教職員と協力し、夜間や長期休業中、夏祭り、秋祭り、夜店等の補導活動を行います。 ・不安を持つ青少年、保護者、学校等からの来所・メールによる相談を受理し必要に応じて専門機関と共同での指導や連携を行います。 ・有害図書を「やぎの箱」で回収するとともに、各商店や大型量販店、遊戯場等に協力要請を行います。 ・少年に関する情報や資料を収集し、センターだよりやチラシ、オリジナル教材等による啓発活動を行います。 ・善行児童生徒の表彰を行います。 ・非行少年等の立ち直りを支援します。 ・学校・警察・青少年補導員会等と情報交換を行い、必要に応じて研修を行います。 ・近畿・県・紀北地区青少年センター連絡協議会等との情報交換や研修を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	立ち直り支援の充実	
	令和4年度の目標	青少年の心情を吐露することの出来る場を提供し、精神的な安定を図る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち直り支援、精神的な安定を大切にした召致指導を3回のべ3人に対して実施した。 ・継続的な指導を実施することで、青少年だけでなく保護者にとっても精神的な安定を得られる指導ができた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		継続的な立ち直り支援を含め、青少年・保護者への指導助言を行った。	
成果指標②	指標名・内容	環境浄化活動の実施	
	令和4年度の目標	引き続き回収を行う。	
	令和4年度の実績	有害図書（雑誌・DVD等）132点、一般図書12点を回収し適切に処分した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		4つの駅を中心に月に一度回収し処分をした	
課題・今後の方向性	立ち直り支援を含め、健全な青少年の育成のため環境浄化・相談活動をより充実させる。		

重点的な取組	No.4	橋本市家庭教育支援チーム事業を推進し、家庭教育支援の充実に努めます。	
	1-(1)-④		
担当部署	生涯学習課（家庭教育支援室）		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・親の集まる場を設定し、「食育」「家読」などのテーマで語り合いを行います。 ・家庭教育情報誌「げんきっこfamily」を年4回発行します。 ・家庭訪問し、子育ての悩みを聞いたり、必要とする情報を提供したりすることで、親の子育ての不安が軽減できるよう努めます。 ・就学時健康診断の場を活用し、就学に対する不安や悩みの語り合いの機会を設けます。 		
成果指標①	指標名・内容	家庭訪問の実施	
	令和4年度の目標	不安や悩みをかかえたまま、孤立する家庭が1件でもなくなるように福祉部局と連携しながら家庭訪問を実施する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問は10家庭 ・家庭訪問実施件数は44件 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		学校やハートブリッジと連携し、各家庭の対応を行うことができた。令和4年度は7家庭から新規に個別相談の申し込みがあった。今後も継続して相談対応を行っていくとともに、新規の申し込み数を増やすためにPRに努める。	
成果指標②	指標名・内容	子育て・親支援講座の充実	
	令和4年度の目標	前年度と同様に、家庭教育支援チームによる親支援講座を開催する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームへの各園・各校・公民館等からの依頼に基づき講座（就学時健診含む）を開催した。 ・保護者同士のつながりづくりのための講座を実施した。 ・前年度に引き続き、保育園・幼稚園・小学校・公民館等から講座の依頼があり、アンケート結果からは「自分と同じ悩みを他の人も持っているんだなと思って安心できた」「自分の時間が持ててほっこりしました」などの意見が多く聞くことができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催数、参加者数とも増となった。福祉センターやスーパー、公園に来られた方を対象に予約不要で短時間の手作り講座が体験できる”プチ講座”を開催し、講座やチームの活動について多くの方に広報することが出来た。 ・SNSを活用して講座の広報を行ったり、様々な講座を展開したりすることで多くの方々に参加していただくことができ、保護者同士のつながりや情報交換、不安解消につなげることができた。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は4名の新しいチーム員が加入し、39名のチームとなった。多様な人材を活かしたより多面的な支援方法を模索し、活動の幅を広げていく。 		

重点的な取組	No.5	子ども館・児童館活動を充実させ、各種事業を実施します。
	1-(1)-⑤	
担当部署	生涯学習課	
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格的な発達に必要な不可欠な「遊び」と「創造」の意義をふまえ、各館の事業の充実に努めます。 ・学校との連携を深め、移動児童館事業の実施、学校授業への支援を充実します。 ・児童厚生員は積極的に研修に参加し、資質と力量の向上に努めます。 ・地域子ども会が子どもと親にとって、共に育ちの場となるよう支援します。 ・異年齢間の交流や中高生世代の居場所・子育て支援の場等、誰もが楽しく過ごせる安全安心な居場所を作り、切れ目のない支援に努めます。 	
成果指標①	指標名・内容	児童健全育成の場としての各種事業の実施
	令和4年度の目標	コロナ禍においての子ども館・児童館の事業について、参加者数は減少傾向にあったが事業参加者数は、回復傾向にあり、例年と同等数を目指して企画する。
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童館の事業参加者は、 <ul style="list-style-type: none"> きしかみ子ども館 1,303名 はらだ子ども館 575名 友愛児童館 440名 名古屋児童館 414名 移動児童館・体育館 中止 移動児童館・授業 626名 夏休みこどもまつり 4館合同での夏休みこどもまつりは中止し、各館での夏まつりを開催した。 ・コロナの制限がある中での活動となったが、感染対策をしながら季節の行事や手作り教室・遊び等の様々な催しを実施した。 ・体育館で開催予定の移動児童館は実施することができなかった。 ・授業での季節の手作り教室は、感染対策をしながら、全小学校で合計26回開催することができた。 ・夏休みこどもまつりは、会場のきしかみ子ども館(岸上文化センター)のグラウンドが工事中の為に開催できず、各館で夏まつり等の事業を実施した。 ・子ども読書推進計画に基づき、図書室の環境を整えることができた。
	評価	<p style="text-align: center;">B A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</p> <p>子どもの安心安全な居場所であり、乳幼児から中高生世代・大人までの誰もが楽しく過ごせる施設であるように環境を整え、切れ目のない支援ができる子ども館・児童館として活動した。引き続きコロナ禍での活動となったが、「できるときに、できることを、できるように」工夫しながら事業を実施した。学校に向く移動児童館は、感染対策を凝らし、昨年度は中止となった学年も加えて開催することができ、更に学校との連携を深めることができた。</p>
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数が減少し、授業時数が増え、帰校時間が遅くなったこともあり、事業に参加しにくくなっている。各館の立地条件等現状にあわせて工夫をする必要がある。 ・コロナ禍での事業について、事業内容・対策等を検討しながら実施する必要がある。 ・移動児童館については、参加しやすいように平日の授業終了後に小学校で開催する等、開催方法を工夫しながら実施する。 ・地域の子ども会の活動が減少している中で、組織の存続・活発な活動のための協力体制を整える。 	

重点的な取組	No.6	人権教育啓発教材の作成と活用を図り、人権教育の推進に努めます。	
	1-(2)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	人権教育学習資料の充実に努めます。		
成果指標①	指標名・内容	人権プロジェクトによる人権教育啓発資料の作成	
	令和4年度の目標	性の多様性についての資料を作成し、市民に性の多様性についての認識を深めるよう努める。	
	令和4年度の実績	人権教育啓発資料について人権・男女共同推進室と連携して作成。令和5年4月に橋本市立小中学校及び広報に併せて全戸配布した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
作成資料を市立小中学校や全戸配布することで、性の多様性に関する理解と啓発の機会を作ることができた。			
課題・今後の方向性	人権プロジェクトによる人権教育啓発は、常に新しい情報を取り入れ、数々の人権課題の解消に向けて引き続き取組を行う。		

重点的な取組	No.7	学校における人権教育の充実を図り、学級等の集団づくりの充実に努めます。	
	1-(2)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「橋本市人権教育基本方針」に基づき、小・中学校では副読本「しあわせ」等を活用した計画的・系統的な人権教育を実施し、豊かな人権感覚を持った児童・生徒の育成に努めます。 ・望ましい集団活動を展開し、集団の中で自他の価値を見いだせる仲間づくり・学級づくりを推進します。 ・自己肯定感と思いやりの芽生えを育てます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校における人権教育の充実	
	令和4年度の目標	各校の状況により計画の見直しを行い、人権教育の更なる充実を図る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校において人権教育全体計画を作成し、各校の状況に応じて重点課題を定めて人権学習の充実を図ることができた。 ・人権教育副教材「しあわせ」をはじめとする教材・資料を活用するとともに、外部人材からの講話や体験活動等とおして人権学習を進めることができた。 ・令和2年度に人権教育副読本「しあわせ」の改訂を行い、令和3年度の配本分から使用を開始した。新たな人権課題に関する教材として、多様な性、デートDV等を扱った教材を盛り込み、学習を進めることができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
成果指標②	指標名・内容	仲間づくり・学級づくりの推進	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が互いに認め合い、大切にされていることが学校教育を支える基盤であるとの共通認識を持ち、各校における教育活動を展開する。 ・中学校における生徒主体の活動を推進するため、市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催）の企画・運営を支援する。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校生徒会交流会（橋本市生徒会連絡協議会主催）の企画・運営を支援し、参加生徒が学校のリーダーとしての意識を高め、他校の生徒との交流で経験したことを自校での活動につなげることができた。 ・教科等の授業においても、児童生徒同士が互いの発言を大切にし、聞き合えるような授業づくりについて指導を行い、実施を進めてきた。 ・園では、友達と遊ぶ楽しさを十分に味わい、互いに認め合える関係を築けるよう振り返りの時間を大切にしてきたことで、友達の良さに気づくことができている。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が互いに認め合い、大切にされていることが学校教育を支える基盤であるとの共通認識を持ち、各校における教育活動を展開できた。 ・ごっこ遊びや様々な遊びを通して表現する楽しさを味わいながら、互いに刺激し合い、それぞれの良さに気づけるような援助を心掛けた。 	

成果指標③	指標名・内容	異年齢の関わり	
	令和4年度の目標	現状の取組を継続し、自己肯定感や思いやりの気持ちの育ちにつなげる。	
	令和4年度の実績	生活の仕方を教えることや集団遊びを計画的に行い実践することで、思いやりの心や憧れの気持ちや自信をもつこと、相手に分かるように伝え方を工夫する姿、憧れの姿に向かって頑張る姿等を育むことができた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
教師の役割分担を明確にし、連携して取り組めた。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりによる幼児の心の育ちを保護者に伝え、共有することを継続する。 ・様々な人権課題にもしっかりと目を向け、学校において体験等も交えながら人権感覚の育成を図っていく。 		

重点的な取組	No.8	いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努めます。	
	1-(2)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や道徳教育等の充実を図り、児童生徒の人権意識の向上を図ります。 ・「橋本市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、いじめを認知した場合は、教職員、保護者、地域住民、関係機関等との連携を図り、迅速かつ適切に対処します。 		
成果指標①	指標名・内容	いじめを認知し、いじめの解消率を向上	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止のため、日頃から児童生徒の様子に目を配るとともに、アンケート等で認知した事案に対して素早く対応し解決する。 ・各校において、いじめに関する研修会を年1回以上開催する。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことである。」との認識の下、平素から児童生徒に対する指導の充実を図る。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において年間1回以上のいじめに関する研修会を開催した。 ・小6及び中3対象の意識調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」との質問に対して、小学校、中学校ともに肯定的な回答をしている。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より教職員全体で児童生徒の様子に目を配り、早期発見早期対応をおこなっている。いじめはどこの学校でも起こりうるものとの認識が定着し、積極的ないじめの認知に努めることができた。 ・いじめに関する研修等を積極的に実施し、いじめを見逃さないよう努力している。また、道徳教育等の充実を図り、人権意識向上のための実践をおこなった。 	
成果指標②	指標名・内容	いじめの早期発見のためのアンケートの実施総数	
	令和4年度の目標	各校年間3回以上（実施総数57回以上）のアンケートを実施し、早期発見早期対応に努める。	
	令和4年度の実績	アンケート実施回数は年間3回以上実施することができた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		各校とも年間3回以上のアンケートを実施し、早期発見早期対応に努めることができた。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはどこの学校でも起こりうるものとの認識を持ち、積極的ないじめの認知に引き続き取り組む。 ・早期発見・早期対応できるよう、日頃から児童生徒に目を配る。また、アンケートについても年3回以上実施し、いじめが継続していないかを丁寧に確認していく。 		

重点的な取組	No.9	「人権講演会」などを開催し、人権教育の充実に努めます。	
	1-(2)-④		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	人権を尊重し、人権意識を高めるために、次の事業に取り組めます。		
成果指標①	指標名・内容	各地区公民館にて講演会や映画上映会への参加数	
	令和4年度の目標	引き続き精力的に事業に取り組み、全職員参加を目指す。	
	令和4年度の実績	<p>各地区公民館で人権講演会・映画上映会を共催で開催し、多数の参加者があった。ただし、冬季は大雪の影響で一部開催日に変更となった。</p> <p>人権講演会(紀見・紀見東中学校) R4.11.2 150名 「絵本でこどもたちにつたえたいこと」講師：長谷川 義史 人権学習会(紀見・公民館) R4.12.1 31名 「インターネット時代の同和問題」講師：坂部 守哉 人権講演会(学文路・公民館) R4.12.11 52名 「笑う門には福来る！ ～いじめられっ子の僕が落語家になったわけ」講師：林家染太本舗 DVD上映会(学文路・公民館) 全4回 54名 「中村久子物語」(R4.6.14)「カンパニユラの夢」(R4.8.19) 「ハルをさがして」(R4.12.7)「田んぼdeミュージカル」(R5.2.15) 映画上映会(隅田・東部コミセン) R5.2.11 126名 「長いお別れ」 人権講演会(橋本・公民館) R4.11.30 28名 「ある精肉店のはなし」～命をいただき、いのちは生きる～ 講師：北出 昭 人権講演会(紀見北・公民館) R5.3.11 52名 「弦を持って海を渡る」講師：ウェイ リーリン 人権講演会(山田・公民館) R4.12.3 54名 「いのちをみつめて ～お芝居とおはなし～」講師：有馬 理恵 人権講演会(恋野・恋野小学校) R4.11.1 110名 「ぜんきゅう心のメッセージ」講師：丹羽 善久 人権講演会(高野口・公民館) R4.8.27 50名 「大石順教尼物語」他 講師：旭堂南左衛門、他講師2名 合計:717名</p>	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、人権講演会等を開催し、昨年度を上回る参加者があった。	
課題・今後の方向性	人権意識を高めるために今後も引き続き事業に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.10	道徳教育の推進に努めます。		
	1-(3)-①			
担当部署	学校教育課			
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育において、子どもの実態を踏まえ、学校や学年の段階ごとに道徳の時間を中心に取り組みます。 家庭や地域の方々との連携を図りながら、道徳性の育成に努めます。 			
成果指標①	指標名・内容	各校における道徳教育の年間計画作成と適切な実施		
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 各校の児童生徒の状況に応じて年間指導計画を見直し、道徳の時間を中心に指導を充実させます。 教科用図書に掲載の教材だけでなく、和歌山県教育委員会作成の読み物資料集等の教材を各校の児童生徒の状況に応じて活用する。 		
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校において年間指導計画や別様（各教科との関連）を見直し、道徳の時間を中心に指導を行った。 和歌山県教育委員会作成の読み物資料集や自作教材を各校の児童生徒の状況に応じて活用した。 		
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	
		<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づき、取り扱う資料にも工夫を凝らし、道徳の時間を中心に指導の充実を図ることができた。 年間指導計画を保護者と共有するまでには至らなかった。 		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では平成30年度、中学校では令和元年度から「特別の教科 道徳」が本格実施となっている。今後も優れた教材や指導方法の共有等を進めていきたい。また、校種を超えた授業交流を実施していきたい。 目指す子供の像、年間指導計画等を家庭や地域の方々とも共有し、互いに連携を図りながら道徳教育の推進を行っていく。 			

重点的な取組	No.1 1	中学生ボランティア・青年リーダーの育成に努めます。	
	1-(3)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの校外活動を促進するとともに、青年リーダーの育成に努めます。 ・中学生ボランティア・青年リーダー活動を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	青年リーダーによる研修会の開催、次世代の青年リーダー候補の育成	
	令和4年度の目標	青年リーダー40名 中学生ボランティア40名 引き続き事業として「子ども冒険村」「ジュニアリーダー研修会」を実施する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青年リーダー：橋本高校で会員募集説明会を実施。会員49名。 ・中学生ボランティア：会員24名。 ・子ども冒険村：新型コロナウイルス感染防止のため日帰り2日間で実施 ・ジュニアリーダー研修会：新型コロナウイルス感染防止のため日帰り2日間で実施 ・中学生ボランティア交流会：参加者 中ボラ12名、青年リーダー4名 ・中学生ボランティア研修会：参加者 中ボラ12名 青年リーダー13名 ・まなびの日への出店（リーダー）・ボランティア（中学生）、橋本マラソンボランティア等に参加 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	令和4年度はコロナ対策をしながら活動を再開することができたが、さらに魅力的な活動をしていきたい。前例踏襲ではなく、共育コミュニティや他の活動と連携したものを実施していきたい。		

重点的な取組	No.1 2	態度教育の推進に努めます。	
	1-(3)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校が連携し、就学前教育から積極的に態度教育に取り組みます。 ・ 学校教育において、保護者や地域の方々と連携を図り、子どもの発達段階に応じた態度教育を進めます。 		
成果指標①	指標名・内容	大人が手本となって態度教育を推進	
	令和4年度の目標	園と家庭が連携しながら、保育者や保護者が手本となる態度（あいさつ、返事、食事のマナー等）を示し、子どもが身に付けられるようにする。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園便りや懇談会等を通じて、保護者の協力が得られるよう働きかけた。 ・ 登降園や園外活動や来園者と接する機会では、保育者が率先してあいさつや会話を交わす姿を見て子どもも親しみを持ってあいさつ等を交わすことができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		日常的な態度として身に付くよう、繰り返し丁寧に指導・援助した。	
成果指標②	指標名・内容	小中学校における指導の充実	
	令和4年度の目標	・ 小中学校においてあいさつ運動や啓発活動を実施し、粘り強く指導を行う。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員からの指導はもとより、児童会・生徒会活動であいさつ運動の実施や啓発ポスターの掲示等を行い、児童生徒を巻き込みながら啓発に取り組んだ。 ・ 学力向上を支える基盤として、授業規律が整っていることが重要であるとの認識を共有し、繰り返し指導を行った。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、黙って同じ方向を向いて食事を行うという指導を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校において、あいさつ運動や啓発活動を継続して実施できた。 ・ 授業規律については、どの教員も同じやり方で授業が行えるように「スタンダード」を作成している学校もあり、組織的な取組を進めている。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園では保護者への効果的な働きかけを工夫する。 ・ 小中学校における規範意識調査の結果は調査年により増減している。継続的に規範意識を高められるよう、粘り強く指導を続ける。 		

重点的な取組	No.1 3	文化財の保護活用に努めます。	
	1-(4)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財や埋蔵文化財等の保護と調査・活用に努めます。 ・郷土資料館で企画展、講座を開催し、地域学習の機会提供に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	指定文化財及び埋蔵文化財の保護活用の推進	
	令和4年度の目標	指定文化財の増加に努めるとともに、文化財への理解・活用に努める。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定等件数は世界遺産1件、国指定4件、国登録27件、県指定30件、市指定67件。 ・上田家住宅、上田家住宅離れ座敷、上田家住宅乾蔵を登録有形文化財に登録した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化財件数は国登録有形文化財が3件増加した。 	
成果指標②	指標名・内容	郷土資料館における、地域学習の場としての各種事業の実施	
	令和4年度の目標		
	令和4年度の実績	令和4年3月末より閉館しているため、実施せず。	
	評価	評価未実施	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	<p>県指定である隅田八幡神社経塚出土品の報告書を作成したため、今後県と協議しながら重要文化財の指定を目指す。</p> <p>登録有形文化財に登録希望の建造物所有者に対し、登録を支援する。</p>		

重点的な取組	No.1 4	芸術文化の振興に努めます。	
	1-(4)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	市内の文化団体と協力し、橋本市の文化・芸術の維持向上に努めます。		
成果指標①	指標名・内容	橋本市民総合文化祭の開催及び参加者数	
	令和4年度の目標	橋本市民総合文化祭を開催し、芸術文化振興をはかる	
	令和4年度の実績	令和4年11月3日～11月6日の4日間にわたり、橋本市民総合文化祭を開催し、1,172人の来場者数を得た。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
新型コロナウイルス感染症の影響により、例年の事業内容から変更した部分もあったが、感染症対策を十分に行い、市民総合文化祭を開催することができた。			
成果指標②	指標名・内容	県展橋本展への参加者数	
	令和4年度の目標	明確なテーマをもって取組み、来場者数増加を目指す。	
	令和4年度の実績	令和4年12月10日～14日の5日間に渡り、県展橋本展を開催。727人の来場者があった。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
概ね例年と同様の来場者数を得た。			
課題・今後の方向性	・新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、開催の場合は対策を十分にとる。		

重点的な取組	No.15	スポーツに親しむ場を提供します。		
	1-(4)-③			
担当部署	生涯学習課			
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育施設の充実及び利用促進を図ります。 ・ 和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への参加、小・中学校と連携した選手の育成に努めます。 ・ 橋本マラソンを開催し、出場者にはスポーツ大会に参加することの喜び・応援者には人のがんばりを喜びと感じる精神を養います。 			
成果指標①	指標名・内容	市民の健康の増進及び、体育の向上を図る取り組み		
	令和4年度の目標	体育施設の貸し出しについて、ホームページ等で周知し、市民が気軽に運動に取り組めるような環境を作る。		
	令和4年度の実績	令和3年度における施設利用者数は、無料施設で33,479人、有料施設で116,188人であったのに対し、令和4年度の施設利用者数は、無料施設で30,104人、有料施設で150,189人であった。有料施設利用人数の増加は運動公園プールを開園したことによるものが大きい。無料施設利用者の減少は、グラウンドを使用していたチームが活動を休止したため。		
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	
		新型コロナウイルス感染予防を実施しつつ、3年ぶりに運動公園プールを開園し、有料施設の利用人数が増えた。また、今年度から体育施設の予約システムの導入により、利用者の利便性が向上した。		
成果指標②	指標名・内容	ジュニア駅伝上位入賞に向けた取組		
	令和4年度の目標	スポーツ推進計画で定めた3位を目標とし、選手の力を最大に引き出すよう練習に取り組む。		
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月5日～2月11日までの土日に練習会を開催し、駅伝選手の発掘と育成を行った。 ・ 11月の第一土曜日から12月の第3土曜日までの全7回で小学2年生から4年生までの陸上教室（長距離走）を開催し、低学年への長距離走への関心とジュニア駅伝の周知を行った。 ・ 2月12日、第22回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会に参加し、総合10位であった。代表チームに中学3年生がおらず、経験も浅かったが、来年に向けて収穫のある大会となった。 		
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	
		今年度は、選手への声のかけ方などを前年より積極的に行うなどし、力のある生徒に如何に参加してもらうかを考え実行した。また、練習についても指導者が練習メニューを組みやすいように練習内容や現時点での実力のデータ化などを行った。 結果、直近の第20回大会の第17位から大幅に順位を上げることが出来た。経験の浅いメンバーで良い経験の出来た大会となり、次年度さらに上位を目指して取り組みたい。		

成果指標③	指標名・内容	橋本マラソンの参加人数拡大への取組	
	令和4年度の目標	広く広報活動を行い、スポーツ推進計画で定めた2,500人を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策により、例年実施していたハーフマラソンを10kmに変更し、規模を縮小して大会を開催。 ・市内をはじめとする各施設にポスターおよび開催要項の掲示の依頼、ホームページへの開催案内の掲載、市内小・中学校および高等学校にポスターおよび開催要項を配布し、出場者を募集。 ・800ファミリー、2km、5km（高校生以上）、10km（高校生以上）の種目に726名が参加した。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間のブランクがありながらも、遠方からは関東地方からのエントリー者を迎え、大会を実施することができた。しかし、目標の2,500人には及ばない参加者となり、実施種目の検討、大会中におけるアトラクションの検討を実施し、マラソン愛好家だけでなく、大会に興味を持った人が出場しようと思ってもらえる大会へと改善していく必要がある。 			
課題・今後の方向性	<p>ジュニア駅伝に関して、市内の小・中学生の生徒数が減少するとともに、各個人の所属するスポーツクラブとの関係からジュニア駅伝に出場する選手の確保が困難になってきている。翌年度以降も11月から毎土曜日に小学校低・中学年を対象に走り方教室（陸上教室）を実施し、未来の駅伝選手の発掘に努める。</p> <p>橋本マラソンに関して、ハーフマラソン再開により、一層魅力のある大会づくりが必要。また、参加者が楽しめるアトラクションを検討し、マラソンが好きな人だけでなく、だれでも楽しいと思える大会運営の整備に努める。</p>		

重点的な取組	No.16	自然と触れ合える体験活動の充実を図ります。	
	1-(5)-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、体験活動を取り入れた環境教育を充実させ、一人一人が環境を大切に思う気持ちを育みます。 ・園においては、散歩や園外活動、飼育・栽培活動等を通して自然に触れ、豊かな感情を育てます。 ・「子ども冒険村」などの自然体験事業を促進します。 ・希少種の保護に取組み、環境学習の推進に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校教育における体験活動を取り入れた環境学習の実施	
	令和4年度の目標	内容を充実させるとともに実施校数の増加を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における（県）緑育推進事業の実施を支援し、12校19学年で実施した。次年度は16校18学年での実施を計画している。 ・各学校においても、環境保全に関する施設見学や校区内清掃等を通じて、身近なところから体験活動を取り入れて環境について学習する機会を設け、児童生徒の環境に対する意識向上に努めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		学校教育における体験活動を取り入れた環境学習を充実させることができた。	
成果指標②	指標名・内容	園外活動、飼育・栽培活動の充実	
	令和4年度の目標	豊かな感情や言葉の育ち、興味・関心といった学びにつながる力を意識し、計画性をもって活動する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに地域に散歩に出かけ、自然に触れる直接体験を行い、活動の後に必ず「振り返り」をすることで、自分の思いや気付いたことを発表したり、友達の話に耳を傾けたり、不思議に思ったことを図鑑などで調べたりするようになった。 ・飼育・栽培活動を通して、命の大切さ、探求心や発見、収穫の喜び等様々な感動体験を友達と共に味わうことができた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		四季折々の自然に触れることや飼育栽培活動の体験から、子どもたちの心が豊かに育ってきている。また、幼児の気付きを絵や写真で表すことで、活動の振り返りがしやすくなり、次回の活動への意欲につながった。	
成果指標③	指標名・内容	「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施	
	令和4年度の目標	コロナ禍の中、出来る範囲の事業を実施していきたい。	
	令和4年度の実績	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、日帰り2日間で実施した。	
	評価	評価未実施	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		コロナが増加している中ではあったが、感染症対策に気を付けつつ日帰りではあるが実施することができた。40名の応募に対し、53名の応募があった。日帰りではあったが、プログラムの中身は充実しており、参加した児童は楽しそうであった。近年問題となっている地球温暖化により、野外での活動が厳しくなってきているので、野外での活動について今後見直していく必要がある。	

成果指標④	指標名・内容	希少種保護と環境学習の推進	
	令和4年度の目標	希少種ヒメタイコウチの保全方策を策定していく。	
	令和4年度の実績	天然記念物としてヒメタイコウチ生息地が指定されている自治体に施策について調査するとともに、市文化財保護審議会にこれを報告し、その方策について審議いただいた。今の段階では経過を観察していくことが望ましいとの審議会意見を受け、継続的に調査を行う予定です。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		審議会の意見に基づき、継続的に生息調査を実施している。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等については、園外活動の下見、安全面の配慮等についての事前打ち合わせを引き続き丁寧に行い実施する。 ・「子ども冒険村」等の自然体験事業の実施については、暑さ対策やコロナ禍を踏まえた事業を検討したが、今後も試行錯誤していきたい。 ・希少種保護については、ヒメタイコウチ生息地のある他自治体の動向とともに、管内生息地の継続的な生息調査により経過を観察していきたい。 		

重点的な取組	No.17	郷土の偉人の足跡を紹介し、郷土愛を育みます。	
	1-(6)-①		
担当部署	生涯学習課 中央公民館		
具体的な施策	(仮称)岡潔数学体験館整備に向け、「岡潔博士顕彰事業」を開催します。		
成果指標①	指標名・内容	(仮称)岡潔数学体験館の整備	
	令和4年度の目標	(仮称)岡潔数学体験館の整備と業績の顕彰に努める。	
	令和4年度の実績	岡潔顕彰寄附金として2名の方から合計金額1,030,000円の寄附金をいただいた。また、(仮称)岡潔数学体験館の設計業者と委託契約を行い、改修工事の設計を実施した。	
	評価	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		クラウドファンディング含め、多額の寄付をいただいた。また、設計も概ね問題なく終了した。	
成果指標②	指標名・内容	岡潔博士顕彰事業の推進	
	令和4年度の目標	顕彰講演会を開催し、広報活動に努め、来場者数の増加を図る。	
	令和4年度の実績	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、数学WAVEと協力し、7月17日に講演会を開催し、80名の参加があった。(講師:国際政治学者・評論家 藤井 厳喜先生)	
	評価	A	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、講演会を開催することができた。講演会には多くの来場者が詰めかけ、また大変好評であった。	
課題・今後の方向性	多数の方に岡潔博士の業績を知っていただけるよう、引き続き岡潔博士の顕彰事業を行う。また(仮称)岡潔数学体験館の整備に向け取り組んでいく。		

重点的な取組	No.18	学校においてふるさと学習に取り組めます。		
	1-(6)-②			
担当部署	学校教育課			
具体的な施策	ふるさと教育副読本である「ふるさと橋本学」を用いた学習の充実をめざします。			
成果指標①	指標名・内容	ふるさと学習の充実		
	令和4年度の目標	地域の特色を生かした年間カリキュラムを実践する。		
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとに作成した年間カリキュラムにそって、各学校で「ふるさと学習」を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症により大きな制約を受けたが、可能な範囲で地域の方々の協力を得ながら、各地域の特色ある学習を実施した。 		
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成	
		<ul style="list-style-type: none"> ・副読本「ふるさと橋本学」を教科等の授業で取り扱いやすい小学校に比べ、中学校においては授業時間の確保が難しい状況がある。総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを図り、ふるさと学習を計画に位置付ける。 		
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習副読本「ふるさと橋本学」DVD版を平成29年度に完成させたが、手元に常に端末がある状況ではなかった。国のGIGAスクール構想に伴い、一人1台端末が整備されたことから、児童生徒の端末で閲覧できるような仕組みを構築しており、今後内容を修正した場合でも常に最新の情報に触れることができる。 			

重点的な取組	No.19	学力向上に努めます。	
	2-(1)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・(市)標準学力調査の実施とその結果分析から市や各校の課題を明らかにし、課題解決に向けて取り組みます。 ・学校において授業改善を図り、児童生徒の主体的な学びを目指します。 ・家庭学習を充実させるよう取り組みます。 ・園においては主体的に遊ぶための環境構成の充実に努めます。 ・学校教育情報化を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	各校における(市)標準学力調査の経年変化及び課題への対応	
	令和4年度の目標	4月に学力調査を実施し、課題を明らかにするとともに、10月(小学校)、12月(中学校)実施の(県)学習到達度調査で県平均を上回る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査は4月に実施し、結果分析会を開催して市内全体の傾向、各校の傾向について分析を行った。 ・10月(小学校)、12月(中学校)に実施された(県)学習到達度調査(対象:小4・5、中1、2、3)では小学校では県平均と同程度、中学校では県平均をやや下回った。 ・本市の状況を改善するために、市内外の効果的な取組について校長会等を利用して情報共有を図った。各学校での詳細な分析結果と改善策について、校長ヒアリングも行った。 	
	評価	C	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を実施してきたこともあり、(市)標準学力調査の結果は年々向上している。 ・家庭学習の習慣化に向けた取組を続けているが、なかなか結果として表れてこない。 	
成果指標②	指標名・内容	各校における授業改善の取組の把握と指導の充実	
	令和4年度の目標	学校訪問等で授業を参観し、各校の取組の実態把握をするとともに、児童・生徒の主体的な学びとなるよう指導を行う。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、学校訪問を通じて指導を行った。多くの学校で授業を参観し、各校の取組の実態把握と全教職員に対して改善策等の指導を行った。 ・各校の研究主任を集めての集合研修や、校長会において市内外の効果的な取組について情報共有を図った。 	
	評価	B	A:達成 B:概ね達成 C:不十分 D:未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問の参観では、和歌山の基礎・基本3か条をベースに、めあての提示、ふり返りの時間の確保、児童・生徒の学び合い等改善が見られた。 ・ICTの活用により、視覚的に分かりやすくする工夫が見られた。 ・アンケート調査において「授業がよくわかる」と回答している生徒の割合が年々増加している。 	

成果指標③	指標名・内容	特別支援教育の充実	
	令和4年度の目標	児童生徒の実態を把握した学級運営を行うとともに、個々に応じた方法・内容で学習できる工夫をするよう指導を行う。	
	令和4年度の実績	支援を要する児童生徒の対応について研修会を開き、実態把握や具体的支援について学んだ。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		研修としては実践に役立つ内容であった。研修内容を生かしてもらうためにも、年度内早い時期に研修会を実施する必要がある。	
成果指標④	指標名・内容	各校における家庭学習時間の把握と啓発	
	令和4年度の目標	児童・生徒の家庭学習の習慣の定着を目指す。アンケート等で好結果を目指す。	
	令和4年度の実績	全国学力・学習状況調査の結果から、「児童生徒質問紙」における「普段（月～金）の学校の授業時間以外の日あたりの勉強時間が1時間以上である児童生徒の割合」は、小学校においては全国比を3.2%上回った。中学校においては全国比を下回っている。近年では、小学校は最も高い結果であったが、中学校は、課題が残る。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実を図るためには、保護者の協力が必要不可欠である。理解を得るとともに、保護者と家庭学習の方法を共有するため、各学校で「家庭学習の手引き」を配布している。 各小中学校では、自主学習の方法を掲示したり、優れたノートを掲示したりという取組や、特に中学校では終わりの会を利用して、振り返りをし、家庭学習の計画を立て、家庭学習を始めていくという取組を行っている。 	
成果指標⑤	指標名・内容	遊びの環境構成の工夫	
	令和4年度の目標	主体的に遊ぶための環境構成について充実を図る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 健康、安全に配慮しながら、園児の興味関心、発達に沿った環境を整えることができた。 子どもの興味関心に沿った環境づくりをすることで遊びが広がり、友達とイメージを共有して遊びを楽しむ力がついた。 園訪問の機会を生かし、園職員と市の幼児教育担当職員が、物的な環境構成や人的な環境である保育者の関わり方について協議できた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		幼児の主体性の育ちが就学後の学びへの意欲につながると捉え、研究に努めた。	

成果指標⑥	指標名・内容	教育情報化の推進	
	令和4年度の目標	ICT機器を活用した授業づくりを推進する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が研修を深められるよう市内教員で構成する研究会の立ち上げを行い、研究会の活動を支援した。教員研修の実施、先進地視察、公開授業、事例集の作成等を進め、教員のICT活用を進めることができた。 ・教員の利用促進のため、各校月2回ずつICT支援員を配置し、教員への研修会の実施、授業支援の業務に従事した。 ・国レベルでデジタル教科書に関する議論が進む中、国の実証事業を活用して全小中学校においてデジタル事業の実証事業に取り組み、効果検証を進めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想により端末が整備され2年が経過。各校においては失敗を恐れずにICT機器を活用した授業づくりに取り組むことができた。1学級あたりの1日のICT機器平均活用時数は令和3年度2.0時間に対して令和4年度は3.0時間に増加している。 ・学習指導要領においては「情報活用能力」を育成することが求められている。昨年度作成した教員向けハンドブックでは市内の統一内容を学年別に示しており、本年度は各校において年間指導計画を作成し、情報活用能力の育成にも注力した。今後も引き続き計画的な指導を実施する。 ・デジタル教科書については、メリット・デメリットの両面が浮かび上がった。令和4年度も国の実証事業に参加し、全小中学校において実証事業に参加する予定であり、これまでの実証事業で得られた知見を今後の施策に反映していきたい。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学級での指導が適切か否かを見極め、改善を図るためには、客観的な指標に基づくPDCAサイクルを確立することが重要である。4月の全国学力・学習状況調査及び（市・県）標準学力調査と10月（小学校）、12月（中学校）の（県）到達度調査をC（チェック）の場面に据え、今後も年間2回のPDCAサイクルの充実を図る。 ・学力向上のためには「授業改善」や「教員の資質向上」が欠かせない。本年度は、授業改善に向けた研修会の実施等を引き続き行う。 ・令和2年度末に整備されたGIGAスクール端末を効果的に活用し、より効果的な授業が展開されるよう、今後も引き続き支援を行う。 ・幼児の主体的な姿とはどのような姿かについて、様々な研修等の機会を活用し、環境構成の工夫に生かしていく。 		

重点的な取組	No.20	体力向上に努めます。	
	2-(1)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストを核に据えたPDCAサイクルを確立します。 ・幼児期の運動発達を促し、体力づくりを推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	新体力テストを核に据えたPDCAサイクルの確立	
	令和4年度の目標	新体力テストにおいて、全学年でTスコアが全国平均を上回る	
	令和4年度の実績	新体力テストの結果、体力合計点で全国平均を上回ることができた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年に比べ体力合計点で低値を示した。しかし、全国同様の低下は見られたものの、全国平均を上回る結果である。 			
成果指標②	指標名・内容	幼児自らが進んで身体を動かそうとする環境づくり	
	令和4年度の目標	幼児一人一人の運動課題を見極めながら、楽しんで身体を動かす環境の工夫をする。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味に沿った体操や運動遊び等を取り入れることで身体を動かすことを楽しむ姿が見られた。 ・体操やリズム遊びを継続して行うことで、楽しみながら積極的に身体を動かすようになり、身体を動かす気持ちよさを味わうことができた。 ・保育者も幼児の一員となり、思い切り身体を動かして楽しむ姿を見せることで、積極的に活動を促した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
年度当初と比較すると体力はついたが、ある程度の姿勢保持も難しい幼児が増えているため、体幹を鍛えるための取組を継続する必要がある。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流会をはじめとして市内外の優れた実践を共有し、体力向上に向けて一層取り組む。 ・幼児が思わず動きたくなる楽しい運動遊びについて研究をする。 		

重点的な取組	No.2 1	教職員の資質向上に努めます。	
	2-(1)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	教職員を対象に研修会を開催します。		
成果指標①	指標名・内容	授業改善に向けた研修会の開催	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育委員会とも連携し、教員の資質向上に取り組む。 ・ 講義のみの研修だけでなく、研究授業を核にしたより実践的に研修会を開催する。 	
	令和4年度の実績	本年度は、年間に予定していた研修を全て実施することができた。来年度以降、研究授業を核にしたより実践的な研修会を開催する。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
橋本市教育委員会で開催する研修は、計画通り実施することができた。来年度以降、研究授業を核にしたより実践的な研修会を開催する。			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業を核にしたより実践的な研修会を実施していきたい。 ・ 教職員の多忙化が問題となっており、教職員がじっくりと研修に参加することが困難になってきているが、今後も教員の資質向上のため、必要な研修会を精選して開催する。また、オンラインでの研修等についても、その効果を検証しながら進めていく必要もある。 		

重点的な取組	No.2 2	橋本市生涯学習推進計画に基づいた取組を進めます。	
	2-(2)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を発掘し、共育コーディネーターが地域の核になるための研修を実施します。 ・地域づくりの主体となる語り合いの場づくりを進め、具体的な行動につなげていきます。 		
成果指標①	指標名・内容	地域を創る話し合いの場づくりの積極的な展開	
	令和4年度の目標	社会教育の根幹となる地域住民の参加をより一層促していく。実施回数は全館で1回以上実施を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・高野口地域共育コミュニティの「教育講演会」、隅田中学校区共育コミュニティの「わいわい集会」など各地域の実情に合わせた取り組みを行うことが出来た。また橋本中央中学校区の3地域の合同で行う研修を実施した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策をしながら実施できた地域が増えた。また研修会では、グループで熟議を実施することで、それぞれの立場からの意見を出し、共有することができた。 	
課題・今後の方向性	和歌山県のCSマイスターの活用や県の研修会への参加などを周知していくことで、共育コーディネーターの資質向上のみならず、次世代の共有コーディネーター育成をすすめていきたい。また地域ごとに行う研修会では、参加人数が少ない場合があっても継続していくことで、人材発掘につなげていきたい。		

註) CSマイスター

コミュニティ・スクールの円滑な実施に向けて助言を行う者

重点的な取組	No.23	「すこやか橋本 まなびの日」事業を実施します。	
	2-(2)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	健康部門と教育部門が協力し、協働のイベントを開催します。		
成果指標①	指標名・内容	「すこやか橋本 まなびの日」イベント内容の充実と多くの参加者の確保	
	令和4年度の目標	各参画団体と市の教育委員会及び健康福祉部とが連携、協働し、当日、多数の方が参加するイベントとなるよう取り組む。	
	令和4年度の実績	令和4年度「第13回すこやか橋本 まなびの日」の当日参加者は1,505人。参画団体28団体、発表団体12団体。コロナ対策のため、模擬店はテイクアウトのみとしたが、メインアリーナでは体験活動を再開した。また開催時間を半日と短縮した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	当日は雨天であったが、体験活動ができたこともあり、昨年度より参加人数が増えた。参画団体のメンバーが高齢化しているため、準備片付けが市職員に頼ってしまっている。		
	従来のおり戻すだけでなく、コロナ禍で実施したことを検証した上で、内容や実施方法はより検討する必要がある。協働で事業の充実と効率化を図っていききたい。しかしながら、市と実行委員会、参画団体でイベントの趣旨や目的が十分に共有できていないため、協働がすすんでいない。それぞれが当事者意識をもって実施できるよう働きかけていきたい。		

重点的な取組	No.2 4	地域の特性、歴史、文化を生かした交流事業を充実させます。	
	2-(2)-③		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「盆踊り」、「ふるさと散策」を開催します。 ・公民館まつりを開催します。 		
成果指標①	指標名・内容	地域住民がふれあえるイベントの実施数	
	令和4年度の目標	引き続きより魅力あるイベントの開催を増やしていく。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館主催の盆踊り・夏祭り等は、新型コロナウイルス感染症拡大のため高野口地区公民館を除き他の7館は全て中止としたが、3月4、5日の第17回橋本市公民館まつりは、一部規模を縮小したが新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら開催することができた。 	
	評価	A・一部評価未実施	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
盆踊り、夏まつりは新型コロナウイルス感染症の拡大によりほとんどが開催できなかったが、公民館まつりは一部規模を縮小したが4年ぶりに開催することができた。			
課題・今後の方向性	公民館活動が衰退しないように今後も引き続き事業に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.25	保育園・幼稚園・こども園と小学校との接続について、研究を進めます。	
	2-(3)-①		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へのつながりを意識した幼児期の教育について、保育園・幼稚園・こども園が連携しながら研究に取り組めます。 ・幼児と児童の交流の場を計画的に設けるとともに、園と小学校の教職員の相互参観や研修の場を設定します。 		
成果指標①	指標名・内容	研究保育への参加	
	令和4年度の目標	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手立てとし、園と小学校が子どもの姿を共有する。	
	令和4年度の実績	園から小学校に送付する要録の様式に10の姿を踏まえた記述があり、園職員の意識は定着してきた。 公立幼稚園では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を明記したアプローチカリキュラムの作成に取り組んだ。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる形で対策をしながら取り組み、職員同士が互いに連携を深めようと努力できた。 ・幼小連携の研修に参加し、保育者の質の向上に努めた。 			
課題・今後の方向性	園職員が10の姿を通して自園の幼児教育を語り小学校へ引き継いでいけるよう、保育者としての資質を高める。		

註) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

幼稚園教育要領において、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿を10個の視点で捉えて明確化したもの。10個の視点で整理されていることから「10の姿」と呼ぶことがあり、具体的な10個の視点は以下のとおり。

1 健康な心と体、2 自立心、3 協同性、4 道徳性・規範意識の芽生え、5 社会生活と関わり、6 思考力の芽生え、7 自然との関わり・生命尊重、8 量・図形、文字等への関心・感覚、9 言葉による伝え合い、10 豊かな感性と表現。

重点的な取組	No.26	中学校区を単位として、小中学校の連携充実に努めます。	
	2-(3)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、共育コミュニティの仕組みを活用し、中学校区として育成したい児童生徒像を共有し、小中学校で連携した教育目標を設定する。 ・教育課程及び指導内容・方法並びに形態の連続性を大切にした指導 ・連続性を大切にした児童生徒の活動 ・教職員間の連携 		
成果指標①	指標名・内容	中学校区を単位とした小中学校の連携充実	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、共育コミュニティの仕組みを活用し、中学校区として育成したい児童生徒像を共有し、小中学校で連携した教育目標を設定する。 ・指導内容・方法並びに形態の連続性を大切にした指導 ・連続性を大切にした児童生徒の活動 ・教職員間の連携 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区として育成したい児童生徒像を学校間で共有し、小中学校で連携した教育目標を設定した。 ・学校運営協議会での協議や共育コミュニティの研修会等の機会を活用し、学校だけでなく地域とも育てたい児童生徒像を共有して中学校区としての取組を進めることができた。事務局担当者も参加し、必要に応じて指導助言を行った。 ・部活動の見学や地域一斉清掃等、中学校区を単位として小中合同の活動や連続性を意識した活動を実施した。 ・小中学校間で管理職の交流は行っているが、時間的な制約があり全校的な教職員間の連携については十分に実施することができなかった。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理職レベルではこれまで同様、中学校区としての協議を進められているが、教諭レベルでは時間的な制約が大きく、十分な連携を行えなかった。 ・学校運営協議会、共育コミュニティの仕組みを通じて、学校だけでなく地域とも育てたい児童生徒像を共有して中学校区としての取組を進めることができた。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職だけでなく、全校的な教職員の連携を進めていきたい。 ・学校運営協議会、共育コミュニティとの協働をさらに進め、学校・地域が一体となって育てたい児童生徒を共有し、小中学校の連携を深める。 		

重点的な取組	No.27	教育環境の施設整備に努めます。	
	2-(4)-①		
担当部署	教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校の適正規模・適正配置基本方針に基づき施策を進めます。 ・学校施設の長寿命化を計画的に行います。 ・学校施設の安全管理に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	計画的な大規模改修の実施	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・城山小学校の長寿命改良事業3期のうち1期目を実施する。 ・紀見小学校校舎の外壁落下防止・屋上防水事業2期のうち1期目を実施する。 ・紀見小学校、紀見北中学校の屋内運動場照明器具の落下防止対策事業を実施する。 ・耐用年数が過ぎた保健室空調機の取り替えを行う。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・紀見小学校の外壁及び屋上の劣化状況が著しく、落下防止・防水対策事業の1期目を実施した。 ・紀見小学校、紀見北中学校の屋内運動場照明器具をLED化するとともに落下防止対策事業を行った。 ・築40年以上を経過し老朽化対策が必要な城山小学校の長寿命化改修（内装、外装、配管、トイレ洋式便器化、床乾式化等）の1期目を実施した。 ・洋式トイレがない恋野小学校のトイレ改修工事を令和5年度に実施するため、工事設計を委託事業により実施した。 ・紀見小学校、学文路小学校、清水小学校、隅田小学校、恋野小学校、城山小学校、高野口小学校、橋本中央中学校、隅田中学校、紀見東中学校、紀見北中学校の保健室にある耐用年数が過ぎた空調機の取り替えを実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		令和4年度の実施事業については予定どおり完了した。	
課題・今後の方向性	<p>昭和50年代から平成初期に建築され、築25年を超え老朽対策が必要な学校施設面積は学校施設面積全体の6割を越える状況であり、来年度以降も引き続き大規模改修工事を行っていく必要がある。市財政状況は引き続き厳しいため、補助金等を活用しつつ計画的な実施を行っていく。</p>		

重点的な取組	No.28	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、就学援助を行います。	
	2-(4)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、就学援助を行います。		
成果指標①	指標名・内容	国の基準に基づいた就学援助の実施	
	令和4年度の目標	必要な援助を平等に支給出来る方法を探る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 要保護1名・準要保護441名 中学校 要保護1名・準要保護215名 (市立小・中学校全児童生徒の16.37% ※古佐田丘含む15.98%) ・市立小学校の特別支援学級全223人中 準要保護児童生徒援助費に59人、特別支援教育就学奨励費に147人を認定した。 ・市立中学校の特別支援学級全109人中 準要保護児童生徒援助費に30人、特別支援教育就学奨励費に74人を認定した。 ・令和4年度新小学1年生、新中学1年生の新入学児童生徒学用品費を前年度の3月に支給することができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		国の基準に基づき、適正な時期に適正な支給ができた。	
課題・今後の方向性	保護者のニーズや国の動向等により、事務が繁雑になってきていることから、出来るだけ簡素化できるよう工夫しているところである。引き続き、研究・実施を心がけたい。		

重点的な取組	No.29	教職員や児童生徒の心身の健康保持に努めます。	
	2-(4)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のメンタルヘルスに関する取組の充実を図ります。 ・疾病及び感染症に対する予防保健活動の推進を図り、児童生徒等の心身の健康保持に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校長との面談	
	令和4年度の目標	職員の健康管理について校長面談の内容に盛り込む。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・校長面談や管理訪問で教職員の健康管理についてのヒアリングを行い、職場環境の状況を掴むことができた。 ・校長との情報交換を随時行い、教職員の健康状況の把握に努めた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の教職員の健康状態や勤務状況を把握し、適切な助言を行うことができた。 	
成果指標②	指標名・内容	がん教育の実施	
	令和4年度の目標	全市立小学校で、がん教育を実施する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市立小学校6年生及びその保護者を対象とした医師による出張授業を12校で実施した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		市立小学校6年生及びその保護者を対象とした医師による出張授業を12校で実施することができた。残り2校の小学校は教職員により実施した。保護者の参観については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全ての学校では実施することができなかつたため、児童を通じた啓発活動となった。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・校長との面談や管理訪問に加え、平素からの情報交換を密に行い、教職人の健康状態の把握に努める。 ・がん教育の実施については、来年度市内小学校13校で医師による出張授業を実施予定である。残り1校については、教職員により実施予定である。 		

重点的な取組	No.30	安定した学級運営を行うため、必要に応じて人的支援を行います。	
	2-(4)-④		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の多人数学級において支援が必要と判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・学級において指導困難な状況であると判断した場合に、非常勤職員を配置します。 ・介助が必要な児童生徒が在籍し、人的支援が必要であると判断した場合に、特別支援教育支援員を配置します。 ・県とも連携を図り、教員業務支援員の配置を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	非常勤講師等の適正な配置と活用状況の把握	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の課題を解消するために必要な非常勤講師等を配置する。 ・非常勤講師等の活用状況を確認するために配置校の訪問を行う。 ・県とも連携を図り、教員業務支援員の配置を行う。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の課題を解消させ、安定した学級運営を行えるよう年度当初28名の非常勤講師等を配置した。その後、各校の状況に応じて、年度末段階では40名の非常勤講師等を配置した。 ・県とも連携を図り、教員業務支援員（15名）や学習指導員（1名）の配置を行い、教員の負担軽減に取り組んだ。 ・配置校すべてを訪問し、効果的な活用について助言することができた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		配置している非常勤講師等の支援が安定した学級運営につながった。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校からのニーズは年々増加している状況である。令和5年度は予算の増額が叶ったことから、よりよい学習環境を提供できるよう、引き続き必要な人員配置を行う。 ・ニーズの高まりに反して、人材確保が困難になってきている。 		

重点的な取組	No.3 1	住民との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。	
	2-(5)-①		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	地区公民館や学校および図書ボランティア等との連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。		
成果指標①	指標名・内容	市民ボランティアへの支援	
	令和4年度の目標	各公民館とそこで活動するボランティアに有益な情報を提供し、活動の活性化を図る。	
	令和4年度の実績	地区公民館で活動されているサークルが、地域や学校へボランティアとして出向き、日頃の活動の成果を発揮することができたが、新型コロナの影響で活動が一部制限された。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
地区公民館で活動されているサークルに有益な情報を提供し、サークル活動を活性化させる一助となった部分もあるが、新型コロナの影響で活動機会が一部制約された。			
課題・今後の方向性	公民館として今後も住民との連携協力を進め、生涯学習活動の支援に努めていく。		

重点的な取組	No.3 2	スポーツ推進計画に基づき、体力向上に努めるとともに、生涯スポーツに繋がる基礎を培います。	
	2-(5)-②		
担当部署	生涯学習課、中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> すべての市民が気軽にスポーツに参加できる環境の整備に努めます。 スポーツにふれあうことにより、健康な人づくり、元気なまちづくりを推進します。 学校・各種団体と連携し、指導者・選手の育成や競技力の向上に努めます。 生涯スポーツやレクリエーション活動を通して、人々の健康増進と交流を深めるため、次の事業を行います。 		
成果指標①	指標名・内容	中央並びに地区公民館のスポーツ大会や健康増進行事への参加者数	
	令和4年度の目標	参加者数、前年比10%増を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館が事務局を務める市民グラウンドゴルフ交流会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 地区公民館でのスポーツ大会(グラウンドゴルフ大会)やウォーキング等の健康増進行事は、コロナ禍の中感染症対策を実施し、一部の地区公民館で開催できた。 【グラウンドゴルフ大会】 紀見地区公民館 R4.6.1 72名参加、学文路地区公民館 R4.5.19 33名 R4.10.13 29名、隅田地区公民館 R4.11.5 89名、橋本地区公民館 R4.9.3 42名 R4.12.11 38名、紀見北地区公民館 R4.5.26 60名、山田地区公民館 R4.12.8 36名 恋野地区公民館 R4.6.29 20名	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナの影響により大会は中止したが、感染症対策を実施しながら一部の地区公民館での開催はできた。今後も引き続き健康増進行事に取り組んでいく。	
成果指標②	指標名・内容	市民ニーズに応じたスポーツをし易い環境整備	
	令和4年度の目標	施設利用者等のニーズに応じて、可能な限り用具等の充実を図る。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 学文路スポーツセンター体育館のトイレ改修 伏原体育館の古くなった卓球台を破棄し、新たに2台設置 南馬場グラウンドのベンチを5台改修 学文路東体育館に得点ボードを2台設置 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者及び職員が怪我することのないよう環境整備を行なった。	

成果指標③	指標名・内容	スポーツイベントを通じた地域交流の促進	
	令和4年度の目標	スポーツイベントを開催する際に、参加する人・見る人・支える人等が大会を通じて交流できるような仕組みの構築を目指す。	
	令和4年度の実績	第26回橋本マラソンを3年ぶりに開催。新型コロナウイルス感染症対策からハーフマラソンを10kmに大会規模を縮小したが、726名の参加エントリーがあった。また206名のボランティアスタッフにより事故なく実施することができた。第17回市民総合体育大会は開会式を中止し、30種目から26種目に減らして実施した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		規模を縮小しながらも橋本マラソンを実施し、会場に集まった人が交流できる機会となった。来年度以降、大会規模を従来に戻すなど、さらに多くの人が交流できる大会にすることが求められる。	
成果指標④	指標名・内容	身体能力や技術力の向上を目指す組織作り	
	令和4年度の目標	体育協会・スポーツ推進委員・スポーツ少年団との連携を強化し、指導者・選手の育成に努める。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のため、スポーツ少年団体力テストを中止とした。 ・スポーツ少年団理事会・総会等を書面決議として開催。 ・伊都地方スポーツ少年団指導者連絡協議会で指導者研修会を実施し、22名の参加者に実技を入れた講義を行い、指導者の育成に努めた。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		今後も体育協会・スポーツ推進委員・スポーツ少年団の指導者に向けての研修会を行う。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が目立つようになってきており、整備不良が原因で利用者が怪我することのないよう細心の注意を払い、事後保全とならないよう予防保全を心掛ける。 ・新型コロナウイルス感染症を考慮した、事業実施を検討していく。 		

重点的な取組	No.33	ESDを意識した各種研修会を計画、実施します。	
	2-(6)-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	ESDの視点で、全体計画及び年間計画を見直します。		
成果指標①	指標名・内容	ESDを推進するため、研修会等の実施	
	令和4年度の目標	各種事業の中でESDの視点の取組みもあるので、ESDの説明を入れ、理解を深める。	
	令和4年度の実績	民間企業、シルバー人材センター、スポーツ少年団、ボーイスカウト等の各種団体の協力のもと紀の川河川敷の清掃活動を実施した。 また、ESD周知のため、「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」のリーフレットを作成した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		河川の清掃活動を通して、環境に関する取り組みを行うことができた。さらにESDの周知に向けて、広報活動が必要。	
成果指標②	指標名・内容	小中学校教職員を対象とした研修会等の実施	
	令和4年度の目標	小中学校教職員を対象とした研修会を1回以上実施し、ESDの理解を深める。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの研修会は、オンラインを2回、対面式を1回の計3回の研修を実施した。 ・奈良教育大学のESDコンソーシアムにおけるESD成果発表会・実践交流会に参加し、高野口小学校の児童が成果発表を行い、清水小学校が実践交流を行った。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		ESD成果発表会・実践交流会に参加した学校もあったが、ESDを前面に押し出して取り組んでいる学校は少ないのが現状。	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教員の研修会を開催し普及に努めるとともに、実践例を紹介する機会を持つ。 ・社会に開かれた教育課程を作成する上で、ESDを関連付ける必要性を学校、地域の様々な場（学校運営協議会、共育コミュニティ含む）で周知する。 ・作成したリーフレットをもとに、未来プロジェクトを活用し、各校のカリキュラム・マネジメントの伴走支援に努める。 		

註) ESD (Education for Sustainable Development)
持続可能な開発のための教育

重点的な取組	No.3 4	「橋本市子ども読書活動推進計画（第3次）」に基づき、読書活動の充実に努めます。	
	2-(7)-①		
担当部署	学校教育課、生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書活動関係ボランティアの活動の活発化に努めます。 学校等における読書活動を推進します。 ブックスタート事業を引き続き推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	一斉の読書時間の確保	
	令和4年度の目標	全小中学校で一斉の読書時間の確保を目指す。	
	令和4年度の実績	朝の学習の時間や週に1時間程度の読書時間を活用するなどほとんどの学校で確保できた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		個人で本を読むだけでなく、小学校では高学年や図書委員会の児童が低学年に読み聞かせを行っている学校もある。	
成果指標②	指標名・内容	学校司書や図書ボランティア等の活用	
	令和4年度の目標	学校司書やボランティアにより、推薦図書コーナーや副読本コーナー等を設置するとともに定期的な入れ替えや内容の充実に努める。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各学校読書推進のための様々なコーナー（新刊本・推薦図書・寄贈本等）を設置し、定期的な入れ替えを行った。 市図書館の団体貸し出し制度を利用して、学校司書が市図書館で選書し、学級文庫や学校図書館以外に読書スペースを設けた学校もある。学校図書館の本を学校司書とボランティアで選書し定期的な入れ替えも行い、多くの本に触れる機会を設けた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		郷土資料本のコーナーを各学校に継続して設置した。また多くの学校で児童生徒が相互に本の紹介をする時間を確保できた。	
成果指標③	指標名・内容	各園の実態に応じた具体的な目標の設定と取組	
	令和4年度の目標	各園、前年度の反省と課題を踏まえながら実態に応じた目標を設定し、取組状況を報告し合い、充実につなげる。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> これまでどおり、公立園、公設民営園、公私連携型の園では、子どもの実態を踏まえて一年間の具体的な目標を設定して取り組んだ。 図書ボランティアの方に向けた研修を実施した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		職員間で読書について情報交換することで、乳幼児期の読書活動推進への意識を確認できた。	

成果指標④	指標名・内容	学校司書だよりの発行	
	令和4年度の目標	各学校の実態に応じた内容で「学校司書だより」を発行する。	
	令和4年度の実績	学校司書発行の「図書だより」は年2回、各学校の実態に合わせて発行できた。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
教員への供覧や各教室・学校図書館への掲示、児童生徒へ配布をしている学校もある。			
課題・今後の方向性	橋本市子ども読書推進計画（第3次）に基づき、学校を中心にボランティア・学校司書・（市）図書館と連携しながら、読書推進に取り組んでいく。		

重点的な取組	No.35	市民に役立つ図書館づくりに努めます。	
	2-(7)-②		
担当部署	図書館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や利用者のニーズに応じた図書館資料の収集と整理・保存及び情報提供に努めます。 ・親しみのある図書館サービス活動を展開します。 ・子どもの読書活動の推進に努めます。 ・地区公民館や学校及び図書ボランティアなどとの連携協力や生涯学習活動の支援に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	資料の収集・整理・保存	
	令和4年度の目標	体系的な資料の整備を進める。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料の積極的な収集と所蔵冊子（寄贈含む）等資料を整備し、郷土資料コーナーの充実に努めた。 ・橋本市に所縁のある偉人のコーナーを設置することにより周知した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料を整備し、郷土資料コーナーの充実を進めることができた。 	
成果指標②	指標名・内容	主催行事の充実	
	令和4年度の目標	内容等に検討を加え、更なる充実を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・一般向けの主催行事はほぼ開催できており、児童向けの行事（読み聞かせや調べる学習コンクール、ビブリオバトル中高生大会）も段階を追って開催できた。 ・図書館講座はコロナ以前に近い回数（5回）の開催ができた。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる読みきかせ会では参加者が増えてきている。 ・図書館講座は多数の参加があった。 	
成果指標③	指標名・内容	子どもたちの読書へのきっかけづくり	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習コンクールやビブリオバトルの継続実施に努める。 ・団体貸出制度の活用に向けて広報活動に努める。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会で「第6回橋本市図書館を使った調べる学習コンクール」のPRをし、市内小学校8校より515作品・大人2作品の応募があった。 ・ビブリオバトル中高生大会の開催ができた。 ・中学校への初めての定期的な団体貸出が開始出来た。（1校） ・幼児を含めた福袋の貸出をした。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習コンクールでは、将来の夢や日常のことなど理科や社会以外のテーマもあり、調べることの楽しさがうかがえる作品が増えてきた。 ・未実施の4校の中学校への団体貸出のきっかけができた。 ・今年の福袋は広報や館内でのPRにより、大盛況で初日（1月7日）でほとんど貸し出された。 	

成果指標④	指標名・内容	ボランティアの支援を募る	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の高校への周知に努める。 ・定期的にボランティアを募集する。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・一部主催行事のボランティアは固定して参加がある。 ・休止していた図書修理と書架整理や配架のボランティアが復活した。 ・高野山大学より2名のボランティアがあった。 ・高校生等のボランティア活動につなげる出前授業をした。 	
	評価	C	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生のボランティアはまだ戻ってきていない。 ・一部出前授業をしたが、新型コロナウイルス感染予防対策で子どもを対象とした活動がなかった為、高校生のボランティア活動につなげることはできなかった。 			
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・Withコロナの中、より安心して利用できる図書館を目指し、情報収集の場、生涯学習の場として、利用者の立場になり市民に役立つ図書館づくりに役立てるよう、様々な図書館の取り組みを参考に図書館サービスを考える。 		

重点的な取組	No.36	食に関する指導の充実に努めます。	
	2-(8)-①		
担当部署	学校給食センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における食育の推進を図ります。 ・家庭との緊密な連携のもと、子どもの健全な成長、発達に不可欠な食生活の充実に図ります。 ・学校と給食センターとの連携を密にします。 		
成果指標①	指標名・内容	学校給食の献立表を工夫し、食に関する情報発信を行う。	
	令和4年度の目標	現状としても工夫しているが、さらに工夫をした献立表を作成する。	
	令和4年度の実績	地元食材、行事食の紹介やマナーなど食に関する様々な情報を掲載した献立表を毎月配布した。また、橋本市のラインにも掲載を行い、いつでも携帯で見ることができる活用しやすい形態とし、アレルギー専用の献立表も対応品目が複数となるため変更した。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>特に平成30年度から行っている食物アレルギー対応で対象品目が複数となるため、見やすく活用しやすいアレルギー専用の献立表を作成することで誤食誤配のリスクを抑えることができた。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標②	指標名・内容	栄養士等による「食に関する指導」の実施	
	令和4年度の目標	直接児童生徒に接し、食の大切さを伝える。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内14校の6年生を対象にバイキング給食を計画し、バイキング給食実施時に栄養士の講話を行い、食の大切さを十分理解してもらった。 ・小学校2校、中学校1校で「給食の栄養と自分たちに必要な栄養」と題して「食に関する指導」を行った。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で直接子どもたちと接する機会が少ない中、バイキング給食は全校実施することができた。 ・家庭科の学習と関連させ、小学5・6年生や中学2年生の実態に応じた指導ができた。 	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標③	指標名・内容	保護者対象の給食試食会の実施	
	令和4年度の目標	保護者の方に学校給食について内容を知って頂く。	
	令和4年度の実績	市内小学校1年生の保護者を対象に給食試食会を実施し、センターの施設概要、学校給食の内容・目標・安全（今年度は特にアレルギー食）について説明し、意見交換を行った。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>コロナ禍の為、実施校は少なかったが、給食の概要、アレルギー対応の内容を説明し、意見交換を行うことが出来た。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		

成果指標④	指標名・内容	給食主任者会議の実施	
	令和4年度の目標	学校と給食センターとの連携を密にする。 食物アレルギー対応について安全確認を行う。	
	令和4年度の実績	市内小中学校19校の給食主任者と年2回の会議を開催し、通常の給食やこれからの食物アレルギー対応について意見交換を行った。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
センターでは給食を作る、運ぶがメインとなるが学校で子供たちが給食を配膳し、給食を食べ、下膳するまでの問題点等を協議することができた。また、今後の食物アレルギー対応で誤食誤配を防ぐための意見交換を行うことができた。			
課題・今後の方向性	課題は、この食育についての取り組みは、給食センター単独では難しく、今後の方向性として、学校、保護者、生産者との連携、意見交換を増やし、今後の食育の推進に役立てる。		

重点的な取組	No.37	学校給食における食物アレルギー対応を実施します。	
	2-(8)-②		
担当部署	学校給食センター		
具体的な施策	食物アレルギー対応検討委員会を設置・開催し今後の対応を決定する。		
成果指標①	指標名・内容	学校給食における食物アレルギー対応の実施	
	令和4年度の目標	現在、「卵」、「えび・かに」「乳」の除去食対応を行っているが、今後の対応内容とスケジュールを決定していく。	
	令和4年度の実績	食物アレルギー対応検討委員会を設置・開催し、現在、実施している「卵」、「えび・かに」「乳」に加え、令和5年度から「小麦」の対応を追加することについての問題点を協議した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
対応を決定するまでに学校関係者やそれ以外の関係部署の意見を参考に安全を最優先に考え計画を進めることができた。			
課題・今後の方向性	課題としては、表示義務の必要な特定原材料の7品目の内、「そば」「落花生」は食材として今後も使用しないと決定しており、今回、「小麦」の対応を検討し、令和5年度からの実施が決定した。今後は食物アレルギー対応検討委員会を設置・開催し、今回決定した対応内容の安全を再確認しながら実施していく。		

重点的な取組	No.3 8	地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業を実施します。	
	3-(1)-①		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習による人づくり・地域づくりのために市民のつながりを大切に、学校・家庭・地域の連携を促す取組を推進します。 放課後子ども教室推進事業を推進します。 地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業が持続可能とできるような実施形態の見直しを検討します。 コミュニティづくりに寄与する取組や実践を共有し、活性化に働きかけます。 学校運営協議会が市内全小・中学校に設置され、きのくにコミュニティスクールとなった。担当課である学校教育課とさらに連携を図り、共育コミュニティと学校運営協議会が一体となったコミュニティづくりを推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	地域共育コミュニティ形成促進事業	
	令和4年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い、事業の持続可能性を追求する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各共育コミュニティ単位で、共育コミュニティと学校運営協議会の一体的推進に向けた研修会を実施した。 まなびの日で、共育コミュニティのパネル展示を行い、周知を図った。 各共育コミュニティごとにPDC Aシートを作成した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		共育コミュニティと学校運営協議会の一体的推進のための研修会や各会議での説明を通して、一定の理解がすすんだ。さらなる一体的推進のための取組をしていく。 事業を継続するためには、幅広い年代の方に活動を知ってもらうため、パネル展示等で周知を図った。	
成果指標②	指標名・内容	放課後子ども教室推進事業	
	令和4年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 実施延べ回数 331回 参加児童延べ人数 4,429名（実績報告値） 各小学校、児童館、公民館、図書館で実施できた。 ふれあいルームコーディネーター不在の小学校があったが、共育コーディネーターと連携して実施できた。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの安心安全な居場所としての放課後ふれあいルームの運営には学校・地域の協力が不可欠である。協力してくれるボランティアの確保に苦慮しているため、ボランティア確保を含めたふれあいルームの周知をさらに図っていく。 地域に住む盲学校の児童が、小学校で開催のふれあいルームに参加することができたこと等、関係機関との連携ができた。 	

成果指標③	指標名・内容	子どもの居場所づくり推進事業	
	令和4年度の目標	事業の実施形態の見直しを行い事業の持続可能性を追求する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施延べ回数 72回 ・参加児童延べ人数 940名 ・小学校5箇所、中学校2箇所、公民館1箇所を実施 	
	評価	B	A : 達成 B : 概ね達成 C : 不十分 D : 未達成
		担当職員のつながりで高校生や大学生のボランティアが参加した事業があった。今後、さらに多くのボランティア確保を目指したい。学習や活動内容について、地域や青少年と共に取り組めるものとするこゝで、持続可能なものにしていきたい。	
課題・今後の方向性	地域共育コミュニティ形成促進事業・放課後子ども教室推進事業・子どもの居場所づくり推進事業の運営には、学校・地域への周知が必要である。また各学校で学校運営協議会での熟議や、高校生や大学生といった若者の力を借りることも必要である。		

重点的な取組	No.39	実効性のあるきのくにコミュニティスクールを推進します。	
	3-(2)-①		
担当部署	学校教育課・生涯学習課		
具体的な施策	学校運営協議会を設置した学校と既存の「きのくに共育コミュニティ」との連携・協働により社会総掛かりで教育の実現を目指す。		
成果指標①	指標名・内容	学校運営協議会の本格的な実施	
	令和4年度の目標	学校・地域・福祉関係等様々な立場から、子どもたちの育ちを考える。	
	令和4年度の実績	各学校運営協議会に出向き、熟議を推進することができた。また、各校に県主催研修会の案内、CSマイスター等を招き各中学校区での研修を行うことができた。 また、各共育コミュニティのPDCAサイクルとの連動を図ることができた。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
課題・今後の方向性	各学校は、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた活動に取り組みながら、熟議を行い、学校運営協議会委員の意見を学校運営に取り組んでいくことができた。 学校と地域が目標やビジョンを共有し、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を進める。 地域資源を活用したカリキュラム・マネジメントに、各種ステークホルダーがどのように関わっていくか伴走支援が必要。		

重点的な取組	No.40	学校評価の実施と結果の公表を行います。	
	3-(2)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、自己評価の実施と公表を行います。 ・学校は、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善に生かします。 ・教育委員会は、学校評価の結果を学校に対する支援に生かします。 		
成果指標①	指標名・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学校関係者評価の実施 ・前年度の学校評価結果に基づく、学校運営の改善 	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全校において学校関係者評価を実施する。 ・全校において、前年度の学校評価結果に基づき、学校運営の改善を実施する。 	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全校において、学校運営協議会による学校関係者評価を実施した。 ・全校において、令和3年度の学校評価の結果に基づき、学校経営計画の修正を行い、年間を通して各校の取組に反映させた。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施が義務化されている自己評価に加え、努力義務とされている学校関係者評価を全校で実施している。保護者、学校運営協議会からの意見に対して真摯に向き合い、学校運営に反映することができている。 ・評価結果については学校だより等で公表するとともに、保護者等から寄せられた意見についての回答を丁寧に行っている。 ・学校評価委員による評価結果では、課題改善に向けた前向きな意見や提案をいただいている。 	
課題・今後の方向性	社会に開かれた教育課程を実現するため、引き続き、保護者、学校運営協議会の評価を学校経営に生かしていく。		

重点的な取組	No. 4 1	保護者や地域社会に学校情報を発信します。	
	3-(2)-③		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	学校WEBサイトや学校だより等、様々なメディアを通じて学校の取組や考え方を知らせることにより、教育活動に対する理解と参画を進めます。		
成果指標①	指標名・内容	各校のWEBサイトや学校だよりによる学校教育活動の情報発信	
	令和4年度の目標	各校のWEBサイト等を活用し、学校教育活動の情報発信に努める	
	令和4年度の実績	各学校ではWEBサイトの更新を行い、学校生活の様子を発信した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		・各学校のWEBサイトや学校便りをとおして、学校の取組や児童生徒の活動の様子を発信している。	
成果指標②	指標名・内容	園便りやWEBサイト等による情報発信	
	令和4年度の目標	各園の実情に応じた方法で、保護者や地域の人に分かりやすい伝え方の工夫をする。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園のWEBサイトでは、行事等を中心に発信し、保護者の安心につなげた。 ・園便りや通信を配布したり、ホワイトボードを使って活動の様子を知らせたりして、子どもの具体的な姿から、幼児教育の大切さを感じ取れるよう工夫した。 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		園児の姿や活動内容をWEBサイトやホワイトボードを使って園児が経験していることや育っていることを写真や絵を使って「見える化」「分かる化」して発信することで、保護者の園教育への理解が深まり、子どもの成長を共有することにつながった。	
課題・今後の方向性	学校の教育活動を早く、広く知ってもらうためには、WEBサイトの充実は必要不可欠である。今後も積極的な活用を進める。		

重点的な取組	No.4 2	地域と連携した安全教育を推進します。	
	3-(3)-①		
担当部署	学校教育課、教育総務課、青少年センター		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、防災訓練を実施します。 ・交通安全、生活安全等、安全に関する指導の充実を図ります。 		
成果指標①	指標名・内容	火災、地震等災害別の防災訓練の実施	
	令和4年度の目標	年2回災害別の防災訓練を実施する。	
	令和4年度の実績	各学校で、年2回の防災訓練を実施するとともに、小学校では防犯訓練を実施した。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		地域の自主防災組織や関係機関と連携し、より実践的な訓練を行う学校が増えている。	
成果指標②	指標名・内容	通学路の安全点検	
	令和4年度の目標	橋本市通学路交通安全プログラムに則り、通学路の安全対策状況を公表する。	
	令和4年度の実績	橋本市においても改めて危険箇所を集約の上、関係機関による通学路合同点検を実施し、安全対策が必要な箇所を11ヵ所追加した。プログラムに掲載の要対策箇所は合計126ヵ所となり、そのうち対策済の箇所は99ヵ所となった。	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		通学路安全推進会議を実施し、通学路交通安全プログラムの見直しを行った。	
課題・今後の方向性	通学路の安全対策については、「通学路交通安全プログラム」に基づき点検等を実施し、ハード面で対策可能な場所はできるかぎり対応しているが、対応できないものも多くあるため、引き続き、児童生徒への安全教育・安全指導や、地域の見守り等のソフト面での安全対策を充実することが重要である。		

重点的な取組	No.43	青少年育成市民会議の活動の推進に努めます。	
	3-(3)-②		
担当部署	生涯学習課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成を阻害する環境の浄化に努めます。 ・社会を明るくする運動を推進します。 ・子ども・若者の社会的自立支援の促進に努めます。 ・青少年の健全育成活動の推進と充実に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	登下校時の見守り活動の実施	
	令和4年度の目標	500名の見守りボランティアの登録を維持する。	
	令和4年度の実績	令和4年度の見守りボランティア登録者は、429名。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線を活用しながら、多くの見守りボランティアの方々に街頭に立っていただいて、子どもたちの安全を確保した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度も登録者数が減少した。 	
成果指標②	指標名・内容	子どもを守るための啓発活動・講演会の実施	
	令和4年度の目標	引き続き各中学校区での研修会等の実施と各健全育成会と連携して講演会等を実施する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本中央中学校区…共育ミニ集会（中止） ・紀見東中学校区…すこやか子育て講演会（令和5年1月25日・降雪中止） ・紀見北中学校区…講演会（中止） ・高野口中学校区…教育講演会（令和4年9月30日） ・隅田中学校区…共育コミュニティ集会（令和4年8月31日） 	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		新型コロナウイルス感染症の影響により、2つの中学校区は今年度も中止としたが、他は、感染症対策を講じながら取り組むことができた。但し、1つの中学校区は開催当日大雪のため中止を余儀なくされた。	
課題・今後の方向性	更なる青少年健全育成の充実に努めるために、学校・家庭・地域が一丸となって取り組んでいきたい。		

重点的な取組	No.44	地域の学びの場として、公民館主催行事を充実させます。	
	3-(3)-③		
担当部署	中央公民館		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが数学及び科学への興味や関心を持つように努めます。 生涯にわたって心豊かに学べる講座、教室、交流会を開催します。 人と人との交流を深めるとともに、健康維持の増進に努めます。 		
成果指標①	指標名・内容	「おもしろ算数・数学教室」、「低学年のための親子算数教室」、「岡潔博士顕彰事業」、「低学年のための親子科学教室」の開催	
	令和4年度の目標	各事業広報活動を行い、参加者増を目指す。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 「おもしろ算数・数学教室」 年9回開催、参加児童のべ72名 「低学年のための親子おもしろ算数教室」 年9回開催、参加児童のべ34名 「低学年のための親子科学教室」 年9回開催、参加親子のべ106名 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>新型コロナの影響はあったものの、感染症対策を実施しながら講座を開催できた。</p>	A
A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標②	指標名・内容	橋本市民大学いきいき学園などの開催	
	令和4年度の目標	学ぶだけでなく、学生自身が講師となり、教える側・学ぶ側との相互学習の機会を組み入れ、生涯学習として取組む。	
	令和4年度の実績	コロナ禍の中ではあったが、感染症対策を実施しながら講座を開催した。学生自身が講師になる機会まではできなかったが、各学年のホームルーム等で学生同士が、相互学習の場を作っていた。	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>概ね達成できたが、次年度は学生が自ら主体となった取組みを実施していきたい。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
成果指標③	指標名・内容	グラウンドゴルフ大会やハイキングなど、スポーツ・レクリエーションの開催	
	令和4年度の目標	高齢者向きの取組みが多く、参加者も多いが、若年層向けの事業を開催する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館が事務局を努める市民グラウンドゴルフ交流会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 地区公民館でのスポーツやウォーキング等の健康増進行事はコロナ禍の中、一部の地区公民館で事業を開催できた。 	
	評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成</td> </tr> </table> <p>コロナウイルス感染症対策を講じながら、スポーツやウォーキング等の事業を実施できた。</p>	B
B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成		
課題・今後の方向性	今後も引き続き公民館主催行事を充実させていく。		

重点的な取組	No.45	学童保育の充実に努めます。	
	3-(4)-①		
担当部署	教育総務課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の資質向上に努めます。 ・施設の環境整備に努めます。 ・学童保育の質的向上をはかるため、NPOへの加盟を推進します。 		
成果指標①	指標名・内容	学童保育の充実	
	令和4年度の目標	コロナ禍において感染症対策を行いつつ、保育を必要とする世帯に対し、保育を提供する。	
	令和4年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の都合により日中家庭で保育を行えない世帯は年々増加しており、令和4年度はコロナによる休校により減少していた令和2年の影響を振り払い、コロナ禍以前を上回る需要があったため、学童保育を実施した。 ・国庫補助金を活用し、各施設にコロナウイルス感染症対策用の補助金を交付し、各施設において消毒用アルコールやマスク、その他コロナウイルス感染症対策の備品等を購入し、対策を講じた。 ・学童保育の指導員の資質向上に努めるべく、学童の職員給与のベースアップを裏付けるため国の補助を経て保育士等処遇改善臨時特例交付金を支給した。 	
	評価	A	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、学童保育の利用が一時的にできなくなった日もあったが、保育を必要とする世帯に対し保育を実施することができた。 ・各施設においてコロナウイルス感染症対策を徹底していただいた結果、学童保育でコロナウイルスのクラスターは生じなかった。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き感染症対策を講じていく。 ・学童保育のニーズの増えている地域に対し、学童保育を提供できる場を整えていく。 ・学童保育指導員の資質向上に努める。 		

重点的な取組	No.46	学校プラットフォーム化の推進に取り組みます。	
	3-(4)-②		
担当部署	学校教育課		
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの課題を早期発見するため効果的なスクリーニングのあり方を研究します。 ・学校に福祉的視点を取り入れ、福祉サービスや地域資源を有効に活用する事例研究を進めます。 		
成果指標①	指標名・内容	学校プラットフォーム化の推進	
	令和4年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング、ケース会議等の効果的なあり方について研究する。 ・スクリーニングの手法を用いて、支援を要する可能性のある家庭の早期発見につなげ、効果的な支援につなげる。 	
	令和4年度の実績	モデル校として開始した城山小学校、学文路小学校と、学校単独で取組を開始した隅田小学校、あやの台小学校の計4校においてスクリーニングを実施するとともに、その結果に基づくケース会議を実施した。	
	評価	B	A：達成 B：概ね達成 C：不十分 D：未達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施校の教職員にスクリーニングによる子ども状況把握について学んでもらうことができた。 ・スクリーニングの実施、分析には多分な時間を要するが、その手法を用いて支援を要する家庭の早期発見につなげることができた。 	
課題・今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニングシートを活用し、教職員間で意見交換を行うことは有効であったが、これをもとに「地域資源」や「専門機関」に振り分けてつなぐという点については引き続き課題が見られる。有効な「地域資源」や「専門機関」が少ないこともあり、学校として児童をつなげていくという意識があってもつなげにくい。今後は、行政機関や地域人材とも子どもの課題を共有しながら、「地域資源」や「専門機関」を活用する道筋をつけていく必要がある。 ・未実施校へのスクリーニングの導入を進めたいが、実施・分析等には職員の負担増もあり、実施が進まない状況である。 		

新型コロナウイルス感染症の影響について

※新型コロナウイルス感染症による影響で当初予定していた事業等が実施できなかった場合、各目標に対する実績の評価を行うことができないため、評価欄につきましては、「評価未実施」としてあります。

◎有識者会議委員の意見

■公民館事業について

○橋本市の公民館活動はこれまで活発に行われ、利用者の学習意欲の高まりが感じられ、県内の活動をリードしてきたという認識を持っている。近年の様々な経済的、財政的な事情にも対応しながら、できる活動を精一杯やっている。公民館は、学校・地域とともに、人と人をつなぐ役割を果たしてきた。それが実現できたのは、中央公民館はじめ、8つの地区公民館で、館長、主事等職員が社会教育主事の資格を取るなどの専門性も高めながら維持し、また、地域の学習ニーズにも答えながらやってきたと思う。

一方で、公民館主事が不足しているという課題があることがわかった。しかし、研修会やプロジェクト会議の実施など独自の活動をしているところは県内にはないかと思う。この辺りは、素晴らしい点である。

○公民館で行われている人権の講演会、映画の上映会などについて、学校の先生から子どもたちに各事業の詳しい内容を紹介してもらい、子どもたちがいいものだ、行ってみようと思ひ、知らない友だちと一緒に映画を見て、できれば公民館で友だちになるというサイクルが一層増えてくれればすごく良いと思う。

公民館は、普段のコミュニティ以外の方と触れることができる場であると思うため、同じ学年で違う学校同士の子供たちが何か公民館で出会いがあるような機会を作ってもらいたいと思う。できれば学校のカリキュラムの中で公民館を利用し、他校の生徒と触れ合う、他校の生徒の意見を聞けるような施策を進めることが実際子どもたちの教育に直結するのではないかと感じた。

○公民館の貸館に関して、習い事の使用で何か月も先まで申し込みされていて、借りることができる隙間がないという状況になっている。地域活動での使用を考慮して、貸館の仕方を考えてほしい。

○公民館の職員に関して、近年職員の育成が課題である。地域のまとめ役として育った職員であるのでやりがいを感じる職場となるよう改善をお願いしたい。

この評価シートの内容を見ると公民館では非常にたくさんの事業をやっていることがわかる。公民館はいろんなことに熱心に取り組んで、よくやってくれている。

■全体を通じて

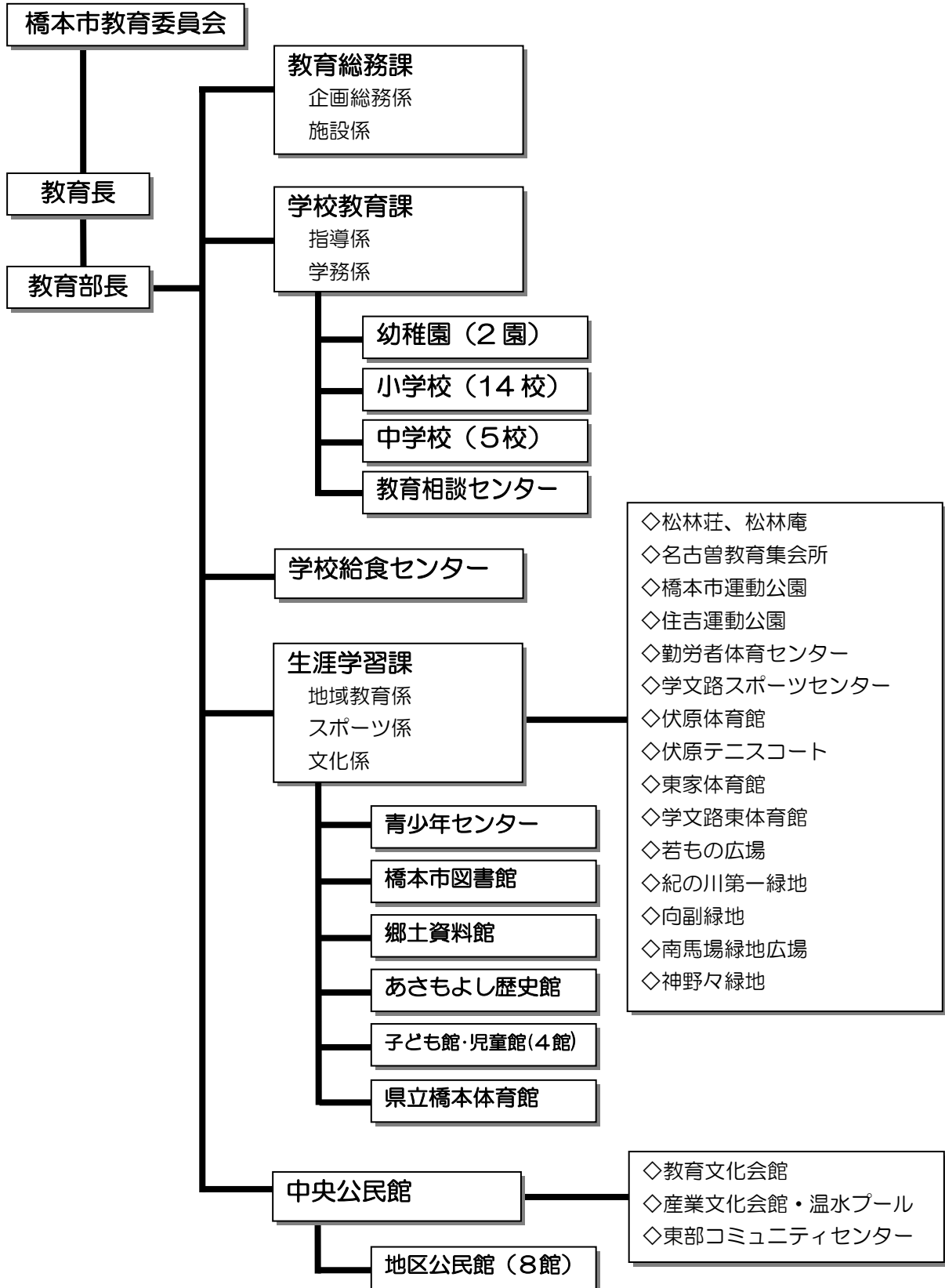
○文化財の保護活動に関して、隅田地区には、城跡とか、多くの歴史資源がある。それらを大切にし、橋本市をPRしていく必要があると思う。

○教育環境の施設設備について、財政状況等々、非常に苦しい中うまくやりくりして、色々な取り組みをしていることを学校長からも聞いている。教育委員会と学校長が学校の施設設備について十分ヒアリングする機会があれば、保護者としては安心できる。

III 教育委員会の活動状況

1 橋本市教育委員会機構図

(令和5年4月1日現在)



2 教育委員会の会議等の活動状況

(1) 橋本市教育委員会委員(令和5年4月25日現在)

職名	氏名	任期
教 育 長	今 田 実	令和 3 年 4 月 25 日 ~ 令和 6 年 4 月 24 日
教育長職務代理者	田 中 敬 子	令和 2 年 4 月 22 日 ~ 令和 6 年 4 月 21 日
委 員	中 下 小 夜	令和 5 年 4 月 22 日 ~ 令和 9 年 4 月 21 日
委 員	藪 下 純 男	令和 3 年 4 月 22 日 ~ 令和 7 年 4 月 21 日
委 員	吉 田 元 信	令和 4 年 4 月 25 日 ~ 令和 8 年 4 月 24 日

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回定例会を、また、必要に応じて臨時会を開催している。

- ① 令和4年度開催状況 定例会 12回 臨時会 1回
- ② 定例会及び臨時会の議案等件数 付議事項 13件 報告事項 41件
- ③ 付議等の主な内容

教育行政の基本計画・基本方針に関すること。

教職員の人事、服務に関すること。

条例、規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること。

教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価に係る公表等に関すること。

教育委員会の行う表彰その他の重要な表彰に関すること。

附属機関の委員の任免並びに委嘱及び解嘱に関すること。

(3) 教育功労賞

次の部門において、著しく功績あった方に対し表彰を行い、功績を称えた。

学校教育部門 2名

IV 関連資料

1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋

第二十六条 (一部省略)

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、橋本市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 教育委員会は、毎年、教育に関する事務が橋本市教育施策の方針に基づいて適切に実施されているか点検するとともに、その成果及び課題等について自ら評価するものとする。

(学識経験者等の知見の活用)

第3条 教育委員会は、点検及び評価についての客観性・公平性を確保するため、点検及び評価の実施方法並びにその内容等について意見を聴取するなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(点検及び評価の結果の活用)

第4条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案等、効果的な教育行政の推進等に活用するものとする。

(市議会への報告等)

第5条 点検及び評価の結果については、報告書を作成して市議会へ提出するとともに公表するものとする。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項については、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年10月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年12月7日から施行する。